



＜ホーム＞世界＞インド「ダリットたちの尊厳回復プログラム」報告8

一緒に歩もう！一緒に変わろう！「立ち上がった世界の人々」の21世紀の夢を応援しよう！

プログラム内容
2010年9月

報告1
10月

報告2
11月

報告3
12月

年間レポート
2011年9月

報告4
12月

報告5
2012年1月

報告6
3月

報告7
6月

報告8
10月



抑圧された人々、ダリットたちの尊厳回復プログラム

南アジア・インド北部

2012年10月 一年の活動を振り返って

同胞のダリット(最も抑圧された人々)の尊厳回復を心から願っていたラムスラットさんを中心に、2010年9月から始まった「ダリットたちの尊厳回復」プログラムも、2年目が終わりました。9月に、この一年の活動を、その計画に沿ってどれだけ進展したのか、また学んだことなどを振り返るため、ラムスラットさんたちが村々を回りました。今回はその報告です。

私たちは、6つの分野に力を注ぐことで、ダリットたちの総合的な尊厳回復を目指しています。「村レベルのカースト差別克服」、「女性と女の子の尊厳回復」、「識字力と教育レベルアップ」、「基本的健康の知識と衛生のアップ」、「リーダーシップ養成」、「地域を越えたネットワーク作り」です。9月中旬に、振り返りのための訪問をしました。その中で見出した進展と取り組むべき課題のいくつかを、お祈り、ご支援くださっている皆様にご報告したいと思います。

「村レベルでのカースト差別の克服」では、2年目の活動になり、人に与えられている尊厳とその平等性を聖書から掘り下げて学んだ人々が実践に移したことが、村の人々の目に留まるようになりました。カーストが違えば、同じ食器で一緒に食事をするなど今まで考えられなかったのですが、家族や村人の反対に会いながらも、その壁を乗り越え始めた若者たちが出てきたのです。カースト差別の被害者・加害者として現状に立ち尽くすままにいるのではなく、自らがその壁を越えていこうと立ち上がり始めたのです。また、カースト差別を乗り越えていくことを自分が暮らす村の人々にも話し始めました。(写真:カースト差別を乗り越え始めた若手リーダーとラムスラットさん) この姿を見て村の人々は、彼らがなぜ、ここまで確信をもって、今まで長い間、慣習として当たり前だと思っていたやり方をあえて変えようとするのか、その理由を知りたいと思うようになってきました。これがきっかけで、「カーストとはそもそも、なんだったのか」が、村人とのあいだで話題に上ることが多くなりました。



もちろん、今も恐れや劣等感に支配され、押し黙ってしまうこともたくさんあります。また、今までカーストの慣習によって優越性を保ってきた側にとっては、今までの特権を手放すことになるわけですから人間的には簡単なことではありません。21世紀の現代世界でも起こっている既得権を持つ人たちとその権利に与えなかった人たちが声を上げ始めたときの摩擦。それがこの村の小さな社会でも摩擦として表れているのです。

その現実と直面しながら、私たちはどのような存在として造られ、生かされているのか、聖書の教えに照らし合わせ続けて、人々の行動の変革が広がるように地道に働きかけています。「他の人を尊ぶ。」何も考えずに当たり前だと思っていた慣習からの変化がさらにより多くの村で広がり、それが根

づくように次の一年に期待していききたいと思います。

「識字力と教育レベルアップ」では、教育を受けることが出来なかった大人たちが自分の子どもたちには教育を受けさせようと学校に送り出すことが当たり前になりました。一方で、大人も当初、文字を学びたいと願っていたのですが、継続することがかなり難しく、結局、十数人の識字受講者のうち、最後まで学べたのは二人だけでした。

今回、人々との活動の振り返りの話し合いで出てきた教育レベルアップの課題の一つは、村では子どもたちが日本の中学生くらいになると、それ以上勉強したときの将来展望が描けないため、学びを継続する意識が親も子どもも急速に薄れ、中退することが多いことでした。(写真:中2で中退した女の子と家族) このため、次の一年では、この年代の子どもたちに「将来展望を描くプログラム」を行うことが提案されました。



「リーダーシップ養成」では、昨年11月末に地域の要になるリーダーたちの研修会を行いました。私は、リーダーが「ダリット尊厳回復」と「地域変革」の鍵を握っていると確信しているため、研修会後に彼らを訪問し会うたびに、彼らが研修会で学んだことをどのように実践に移し、村では何と格闘し、うまくいったり、いかなかったりしているかを聞き、励まし続けました。彼らはみな、私と同じように聖書が伝える「ものの見方」を身につけ、イエスの教えを実践するとき、個人と同時に、地域社会が変わっていくという確信を持っています。

「人はお互いに尊ぶあうように造られた。」このことを信じ、実践するリーダー達には障壁もたくさん起こってきます。けれども、その壁を越えて、真実を求めていた人たちが少しずつ、勇気を持って集まり始めてきました。次の一年では、この一年間で大きく成長した若手のリーダー達が、各分野の活動の中核となって「尊厳回復」のモデル村が形作られるように支えたいと願っています。

2012年10月～2013年9月の新年度の活動に向けて

この一年も、日本の皆さまの祈りと応援を本当にありがとうございました。この2年間の活動から学んだことを生かし、3年目の活動が始まりました。ぜひ、さらにお祈りくださり、ご支援をよろしくお願いいたします。

[プログラム内容](#) [報告1](#) [報告2](#) [報告3](#) [年間レポート](#) [報告4](#) [報告5](#) [報告6](#) [報告7](#) [報告8](#)

[Page Top](#)

[Share](#) |

[ホーム](#) [活動内容](#) [FMIの特徴](#) [参加する](#) [寄付・献金](#) [お問い合わせ](#)

Copyright(c) Friends with the voiceless International All Right Reserved

